

元気いっぱい弾ける子どもたち、係の仕事にも責任持って取り組んでくれた6年生。『一致団結中村小』をスローガンに全力を出し切った運動会。行事を通して、子どもたちはきっと逞しく成長したことでしょう。

今学期最初の研究授業は、4年1組宮川先生に行っていただきました。本単元は、「四万十市を訪れる観光客に向けて、食べてほしいものをおすすめする文章を書く」という言語活動を設定していました。授業と事後研の様子をお知らせします。本時は、6/9時間目です。

単元名

「おすすめしたいこの一品！～リーフレットで四万十市のおいしい魅力を発信しよう」 全9時間

教材名 「ふるさとの食を伝えよう」

研究授業：4年1組 宮川 教諭

身に付けさせたい資質・能力： 相手や目的を意識して、自分の考えとそれを支える理由や事例を整理して、書き表し方を工夫して書く力

学習の流れ

「おすすめしたい、この一品！」
～リーフレットで四万十の
おいしい魅力を発信しよう～
学習の流れ（全9時間）

観光客に四万十市の食
をおすすめする文章を書
く。

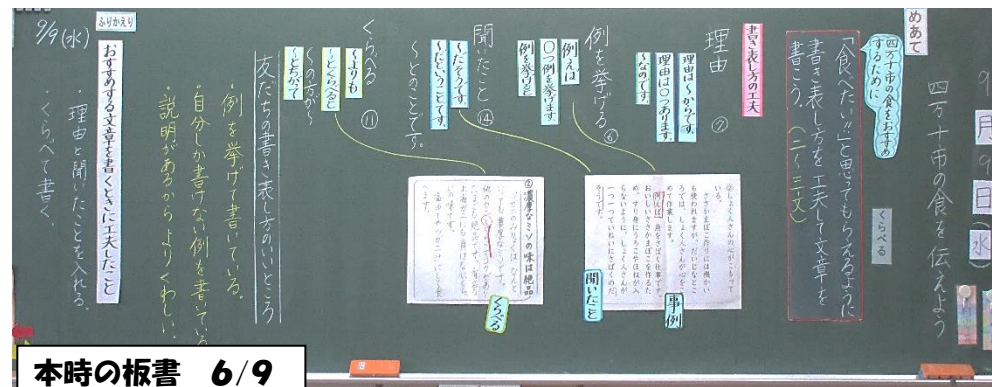
1 付けたい力を知り、
学習の計画を立てよう(2)
・リーフレットの構成や書き方
の工夫を知ろう。

2 おすすめしたい理由や事例
を整理しよう。(6)

・おすすめの良い例を決めよう。
・情報を集めよう。
・おすすめの良い理由や事例を選
ぼう。
・構成や割り付けを考えてリー
フレットを書く。

3 リーフレットを友だちと紹介
し合おう。(1)
付けたい力

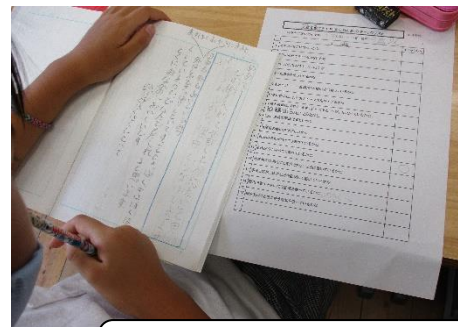
観光客に四万十の特
産品を伝えるために、理由
や事例を挙げて書く。



本時の板書 6/9



構成メモを見ながら書き進めます。



推敲チェックリストを使
って確かめています。

授業者のリフレクションシートより

目標達成に向けて 児童が「事例を書くことでイメージしやすい」「より詳しく伝えるためにこの言葉を使いたい」という思いを持ち、事例を挙げて工夫して書いていく必然性を持たせることが必要だった。

見・考 使わせたい言葉のある文章とない文章を比較するなどして必要性を実感させる。

その他 インターネットに頼る傾向があるので、書籍やパンフレット、インタビューなどを活用させ、足りない情報をインターネットで調べるようにしていきたい。また、必要な事だけ短くまとめて書くメモの取り方を繰り返し指導していく。

授業参観の視点（3点）に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。（抜粋）

1. 本時の目標は達成できたか。

○先生のモデル・ワークシート・板書など様々な手立てが充実している。

○推敲チェックリストを使って、まだ不十分であることを自覚してめあてに入り、必然性を持たせていた。

▼書き表し方の工夫をすることで、文章がどうなるか知ることができたらよかった。

▼事例や比べること・聞いたことなどを入れて書くことの良さを感じられていない。

代案事例や比較がないバッドモデルを示し、より伝わる書き方を子どもたちが見つけていくのはどうか。

2. 児童が本気になる課題の工夫があったか。

○単元名やフレーズなど興味付けができていて、おすすめの文章を書きたいという意欲を持っていた。

○実物・写真などがありイメージしながら書くことができていた。

3. 「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立てがあったか。

○理由・事例を記述する表現を意識していた児童は、赤で印を付けながら読み返すことができていた。

▼事例・比べる書き方・伝聞などは既習なので、文章を吟味する時間や友達の文章の良いところを探しながら読む時間を多くとれるようにしたい。

自分の文章も前時と比べてよくなったかどうかを問う。

指導主事より（本単元・本時の学びのポイント）

①書き表し方を工夫したくなるように

・下書きとモデル文、事例メモとモデル文などを比較したりして、書き表し方の工夫とその効果が明確になるようにしたい。「なるほど、文章のこの部分が書き表し方の工夫か。」→「工夫した文章を読むと伝えたいことがすごく伝わってくるね。」→「自分も工夫して伝えたいな。」と児童が書き表し方の工夫を実感し、使いたくなるように展開したい。

・書く学習で自分が工夫したことは、読む学習で「筆者はどんな工夫をしているかな。」という読みの視点に生かされる。逆についても同じ。ポイントは「よさ」に気付かせること。

②目的・相手意識を明確に

児童の思考 相手は大人だな、四万十市のことを知らないだろうな、なぜおいしいか伝えたいな

⇒ 経験や味・家族から聞いたことを入れて書こう

実感のこもった文章になる

⇒ リーフレットの構成・わりつけを工夫して書きたいな

より相手を意識して

授業を通して

・復習は短く簡潔に、思考し表現する時間を確保

・使う（工夫する）ことでより良くなったと実感させる

楽しく温かい口調で学習を進められている宮川先生。「困ることが出てくるよね。」「班で話してもいいよ。」児童の思いに寄り添って、活動できるように調整されていました。

TVでおなじみのフレーズで興味を持たせ、家庭学習との関連（予習で調べる・家の人に聞くなど）を図り、子どもたちは『四万十の食』に浸っていました。また、モデル文やワークシートの作成、学習のポイントをまとめ掲示するなど、周到な準備で本単元を積み上げられていました。子どもたちのおすすめ文には、アユの塩焼きのおいしさを「じっくり焼いていること」を取り上げたり、「川エビは春にとれるものに比べて、秋にとれるもののおいしいそうです。」と聞いたことを入れたりして、おすすめしたい一品の良さが伝わる文章を目指して仕上げていました。

運動会練習もあり大変忙しいこの時期に、研究授業をしていただいた宮川先生、ありがとうございました。

